

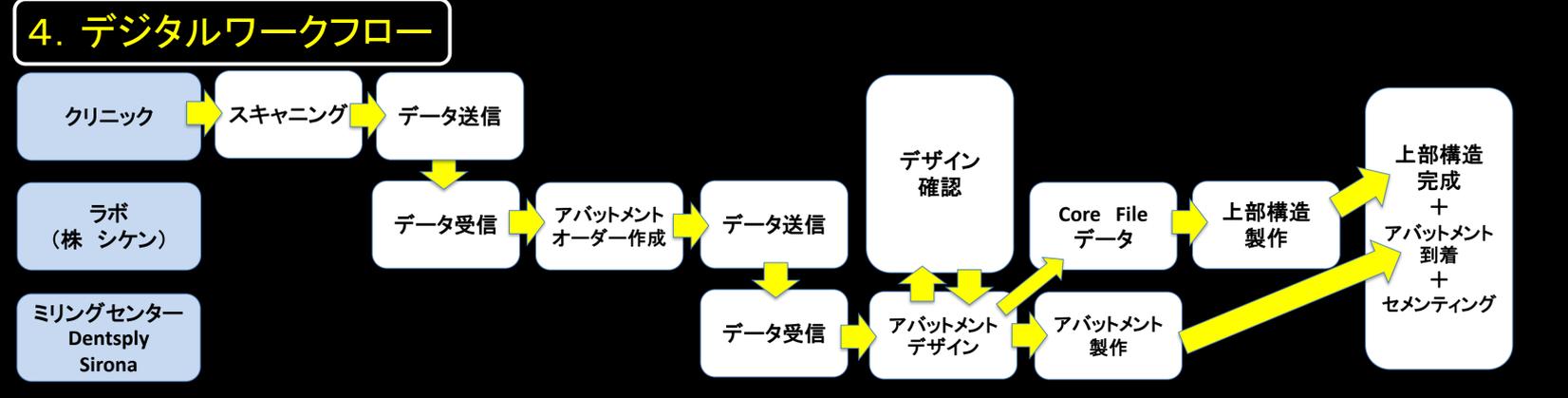
演題番号 (事務局で用意)	日本顎咬合学会 COI 開示 坂田 克己 演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。	光学印象を用いたCAD/CAM インプラント上部構造について 株式会社シケン坂田克己
-------------------------	---	---

1. 目的
 歯科医療の分野もCAD/CAM化は加速している。その精度は日々向上しており、口腔内を光学印象採得が行える時代である。口腔内光学印象機器の国内普及率は5~6%とまだ低い、今後ますます加速することが予想される。今回、その有用性を検証すべく口腔内光学印象によるCAD/CAMインプラント上部構造を製作したので報告する。

2. 方法
 口腔内インプラントチタンベースにスキャンボディーを装着し光学印象を行う。データをラボへ送りアバットメントの製作、同時にインプラント上部構造を高透光性ジルコニアで製作する。

3. 使用材料・システム

- ・システム: DentsplySironaアトランティス・シロナコネクト
- ・口腔内スキャナー: DentsplySirona CEREC Omnicam
- ・スキャンボディー: アトランティススキャンボディー
- ・インプラント: OsseoSpeed TX3.5,4.0-Aqua
- ・アバットメント: スクリューリテインアトランティス ゴールドシェードチタン
- ・セメント: クラレノリタケパナビアV5
- ・上部構造(高透光性ジルコニア): アイキャスト BELLEZZA



5. スキャンボディーを装着⇒口腔内スキャン
 口腔内スキャンデータをラボへ(株シケン)

Atlantis スキャンボディー (IO FLO)

6. アバットメントデザインに必要なエマーゼンス形状、マージンポジション等のデザインデータを送信
 DentsplySironaでデザイン開始
 ラボ・Drの双方がデザインを確認しアバットメント製作

7. アバットメント製作と並行してラボ(株シケン)で上部構造デザイン、製作

8. 口腔内調整後写真、デンタル画像
 コンタクト、バイトに調整を要した

39歳 女性
 主訴
 患者の要望により、セメント固定式からメンテナンス性の良いスクリューリテインに変えたい

9. 考察及び展望
 昨年、光学印象を用いた一般補綴物製作を(ジルコニア年間約800本)スパーサー60μ・バイト接触50μ・コンタクト接触25μという設定値で行ってきたが、調整を要する症例は少ない結果となった。
 今回、インプラント上部製作時も、これまでの一般補綴製作と同様の設定値で製作した。口腔内インプラントへの適合は問題はなかったが、コンタクト・バイトについては調整を要したため、今後インプラント上部構造製作時は設定値の変更が必要となった。
 光学印象が従来の印象法より精度において優れていることは周知であり、印象時のポジショニングのズレもないため、口腔内スキャナーを用いたアバットメント及び上部構造製作は、ミスも少なく正確な補綴物製作のワークフローとして確立されていくと言える。
 しかしながら、全てのインプラントに対応したCADシステムは確立されていないため、CADデザインソフトと加工機の選定、的確な設定値について今後検証していきたい。